

Multi-bending scopeの特徴とESDにおける有用性

助教
中山敦史
Atsushi NAKAYAMA

教授
矢作直久
Naohisa YAHAGI

慶應義塾大学医学部腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門

はじめに

内視鏡的粘膜下層剥離術（endoscopic submucosal dissection：ESD）の発展，普及に伴い，近年ではさまざまな内視鏡およびその周辺機器も開発，整備されつつある。それによって，これまででは切除困難であった部位へのアプローチが比較的容易になり，内視鏡治療の一助となっている。今回は multi-bending scope（以下，M スコープ）（**図1**）についてその特徴を解説し，実際の ESD における有用性を提示する。

仕様

M スコープは OLYMPUS 社から販売されている GIF-2TQ260M の通称であり，その仕様は **表1** の通りである。従来の彎曲部（第1彎曲部）の後方に上下方向に彎曲する第2彎曲部が設けられており，マルチベンディング機能を有しているのが最大の特徴である（**図2**）。また，M スコープは左右2箇所を鉗子口を有しており，左右の鉗子口を併用して使用したりそれらを使い分けることで治療用内視鏡としての有用性が向上している（**図3-A**）。さらに，送水専用の前方送水チャンネルを搭載しており，鉗子口の中に処置具を入れた状態のままでも同時並行して粘液や血液の洗浄除去が可能となり，治療開始前の病変範囲診断や治療途中の出血に対する出血点同定にも有用である（**図3-B**）。以下，第2彎曲部機能と2チャンネル鉗子口について詳述する。

1. 第2彎曲部の使用方法と特徴

図2 に示すように，従来操作部のさらに上方に設けられた第2彎曲 UD アンクルノブを操作することで，第2彎曲部を上下方向に彎曲させることが可能である。2箇所の彎曲部はそれぞれ